



綿打地区



藤田さん

と

小倉さん

ふたりのつながり

ふたりのつながりは15年前頃、早川いずみ会（シニアクラブ）のグラウンドゴルフで出会ったことがきっかけです。

小倉さんが自身の趣味であるオカリナサークルに藤田さんを誘ったことから親交が深まり、今では、毎日のように顔を合わせる仲になりました。

毎月第2・第4月曜日のサークル活動に加え、小倉さんの自宅で一緒に練習をしたり、冗談を言い合い、楽しい時間をすごしています。

また、活動が盛んな早川いずみ会でも顔を合わせる機会が多く、交流を続けています。

お互いの存在は、日々の暮らしをより豊かで楽しいものにし、大切な支えとなっています。



人とのつながりは、「地域のお宝」で、お互い顔の見える関係から始まり、いつの間にか支え合いに発展します。地域の何気ない活動も5年後、10年後、人生を豊かに過ごすための糧となります。あなたの今のつながりを「支え合い活動」として意識してみてください。

地域のお宝発見 ～ 太田市生活支援体制整備事業 ～

小倉さんは、62歳でご主人を亡くされて以来、一人暮らしです。

近くに住む息子さんから「一緒に暮らそう」と声をかけられますが、今の友人や仲間との関係を大切にしたいという思いから、引越は望んでいないそうです。



藤田さんは、現在、早川いずみ会の女性部長を務め3年目。いずみ会について「介護予防になるだけでなく、人とつながると人生が明るくなります」と笑顔で話します。

少し年上の小倉さんは、一緒にいると安心するそうです。

小倉 都 さん(80才)

藤田 英子 さん(75才)

ふたりのつながり



小倉さんは、令和7年に白内障の手術を受けたほか、足を骨折しました。そんな中、藤田さんは通院の送迎やお裾分けなどで小倉さんを支えました。また、オカリナサークルにも、ふたりで休まず通い続けたそうです。

オカリナサークル「風音」のメンバーからは、「素晴らしい関係ですね」「こういう仲間がいるといいですね」という声が聞かれました。

ご近所同士のふたりが気軽に行き来し、冗談を言い合える関係は、高齢になっても、ひとり暮らしになっても、安心して暮らしていくための心強い支えとなっていました。笑顔で語り合うふたりの姿からは、人とのつながりが日々の楽しみや生きがいにつながっていることが伝わってきます。

